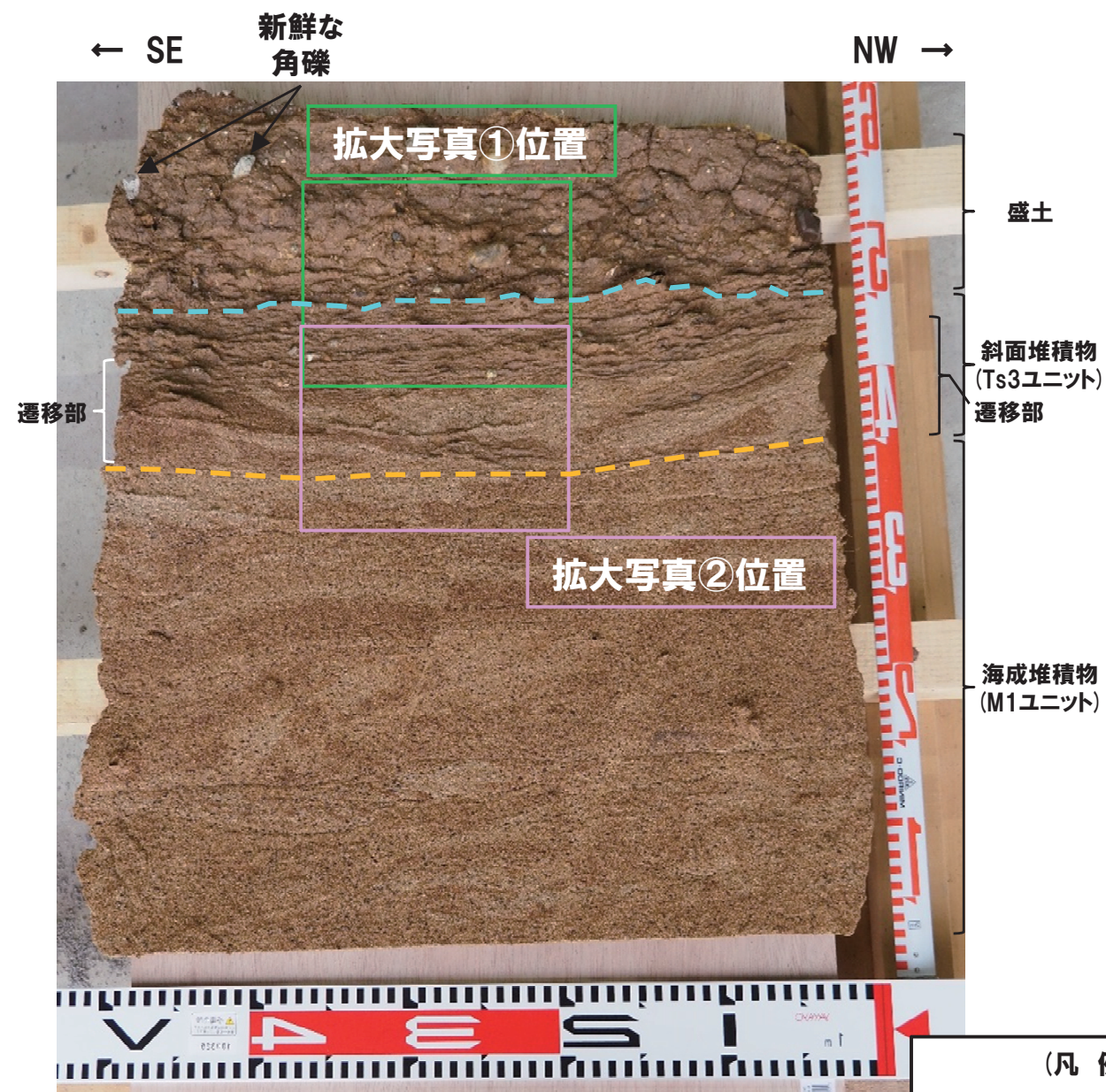


(1) 地層区分の整理

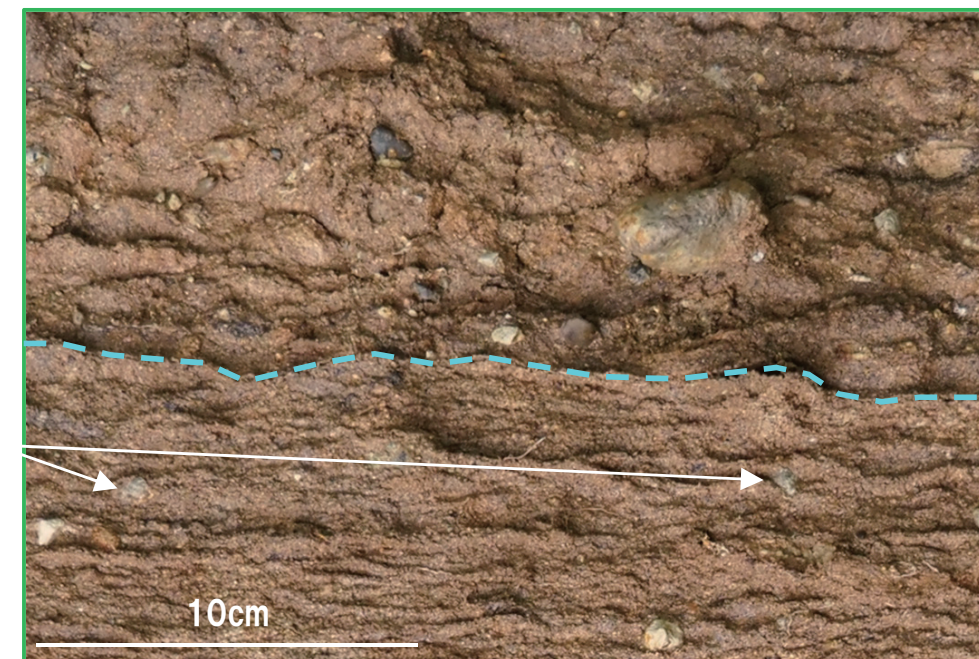
①層相確認-はぎとり転写試料②(2/2)

- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局所的にシルトが認められる。また、基底面は下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が混じる。
- 盛土は暗褐灰色を呈する礫混じり砂で、新鮮な角礫が混じり、不均質な層相を示す。

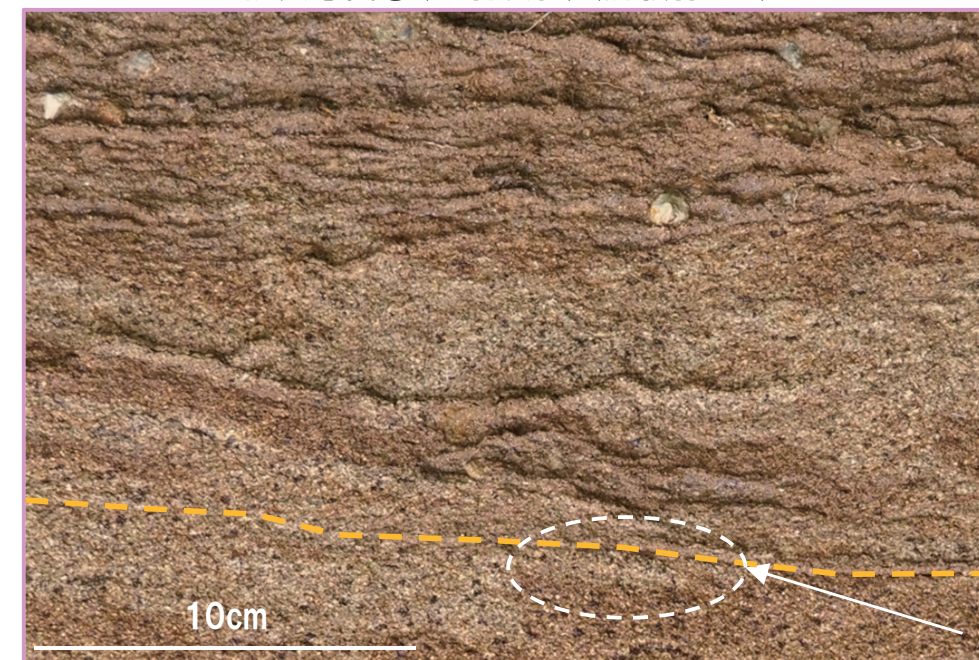


はぎとり転写試料写真 (左右反転) (解釈線あり)

- (凡例)
- - 盛土基底面
 - - Ts3ユニット基底面



拡大写真① (左右反転) (解釈線あり)



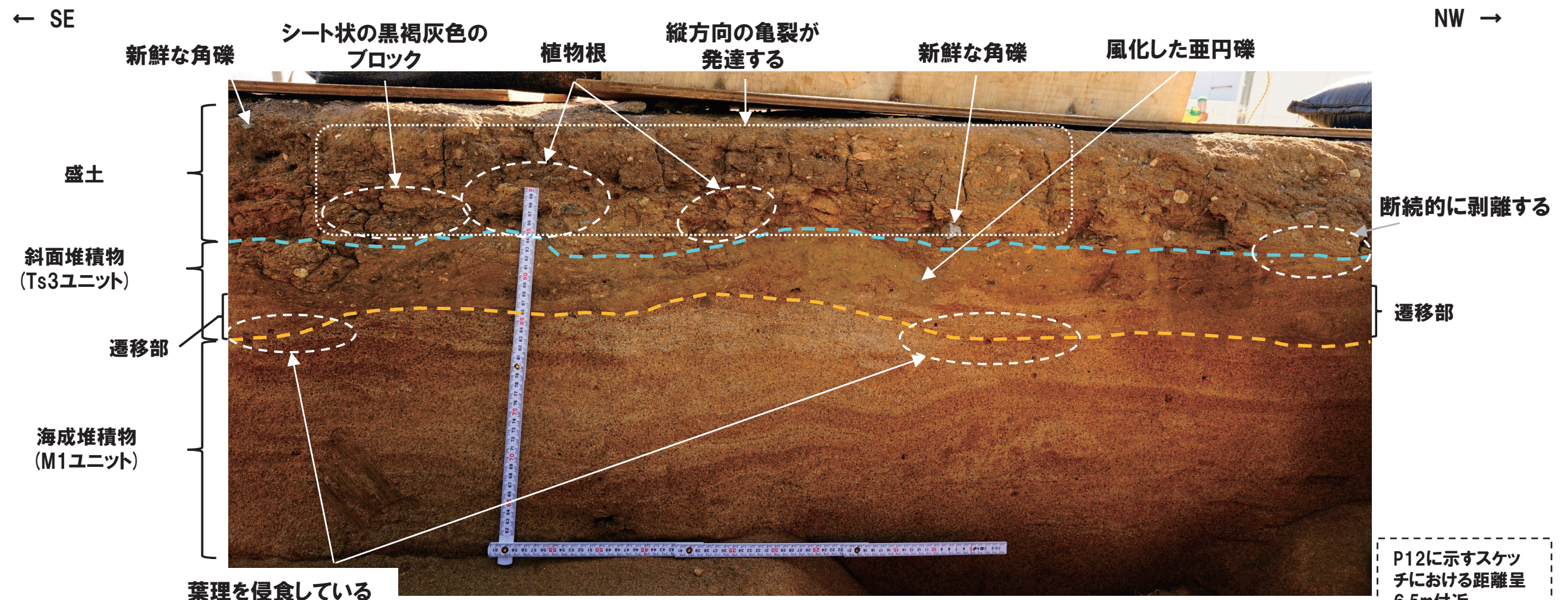
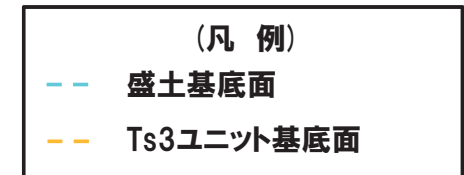
拡大写真② (左右反転) (解釈線あり)

葉理を侵食している

(1) 地層区分の整理

①層相確認-露頭観察(層相確認②)

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また、基底面は下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が認められる。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、斜面堆積物に比べ植物根が多く認められる。また、基底付近にはシート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



P12に示すスケッチにおける距離呈6.5m付近

拡大写真(層相確認②位置(解釈線あり))

令和2年6月撮影

(1) 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料③(1/2)

(凡例)

- 盛土基底面
- Ts3ユニット基底面



← SE

盛土

Ts3ユニット

※横断掘削箇所①の掘削時に、基底の盤下げを行った上で、はぎとり転写試料を作成した。

はぎとり転写試料作成位置※

M1ユニット

NW →

P12に示すスケッチにおける距離呈 4.5m付近

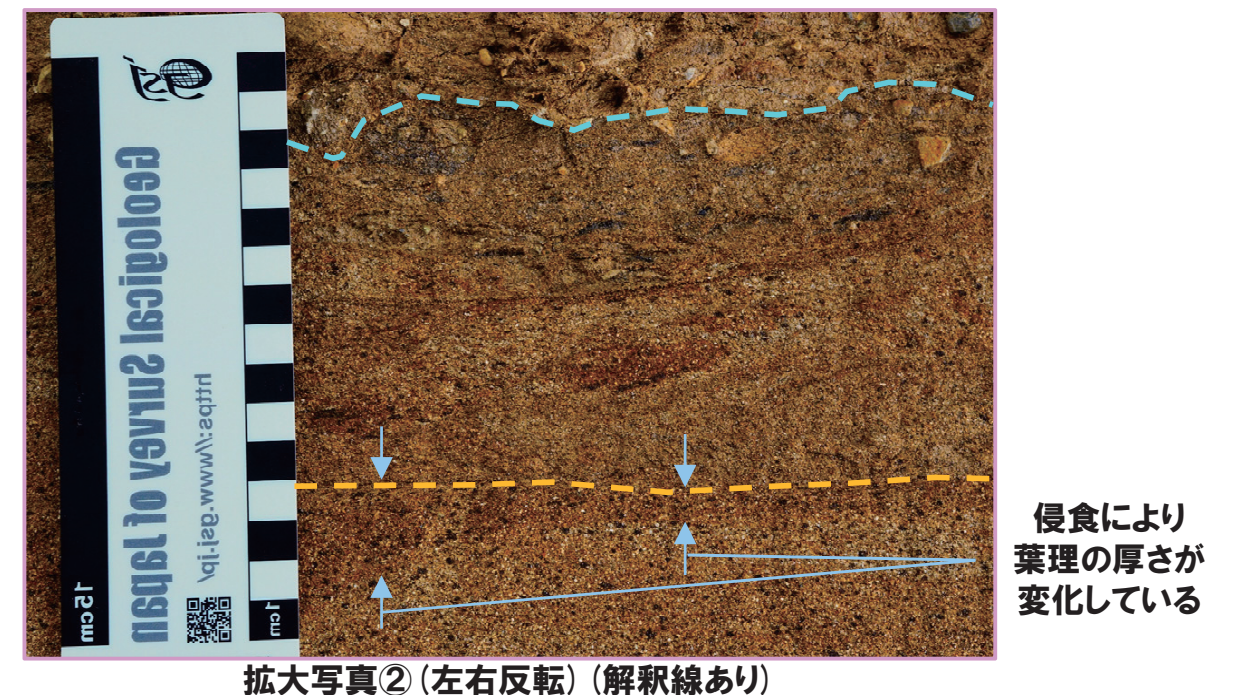
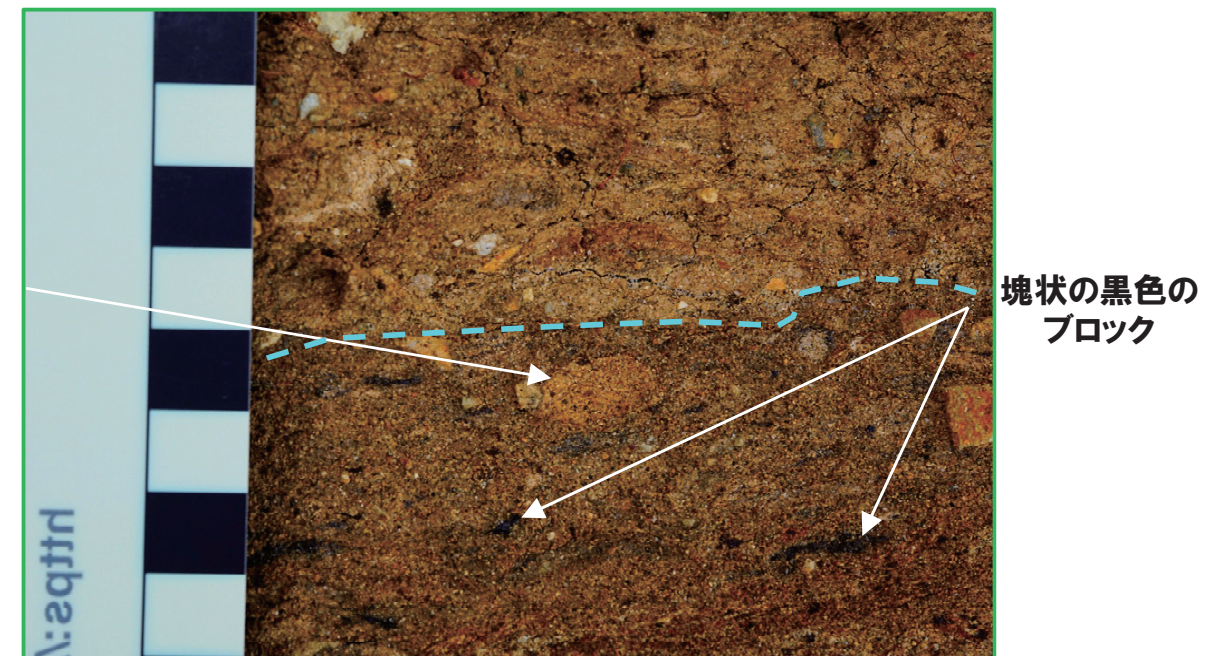
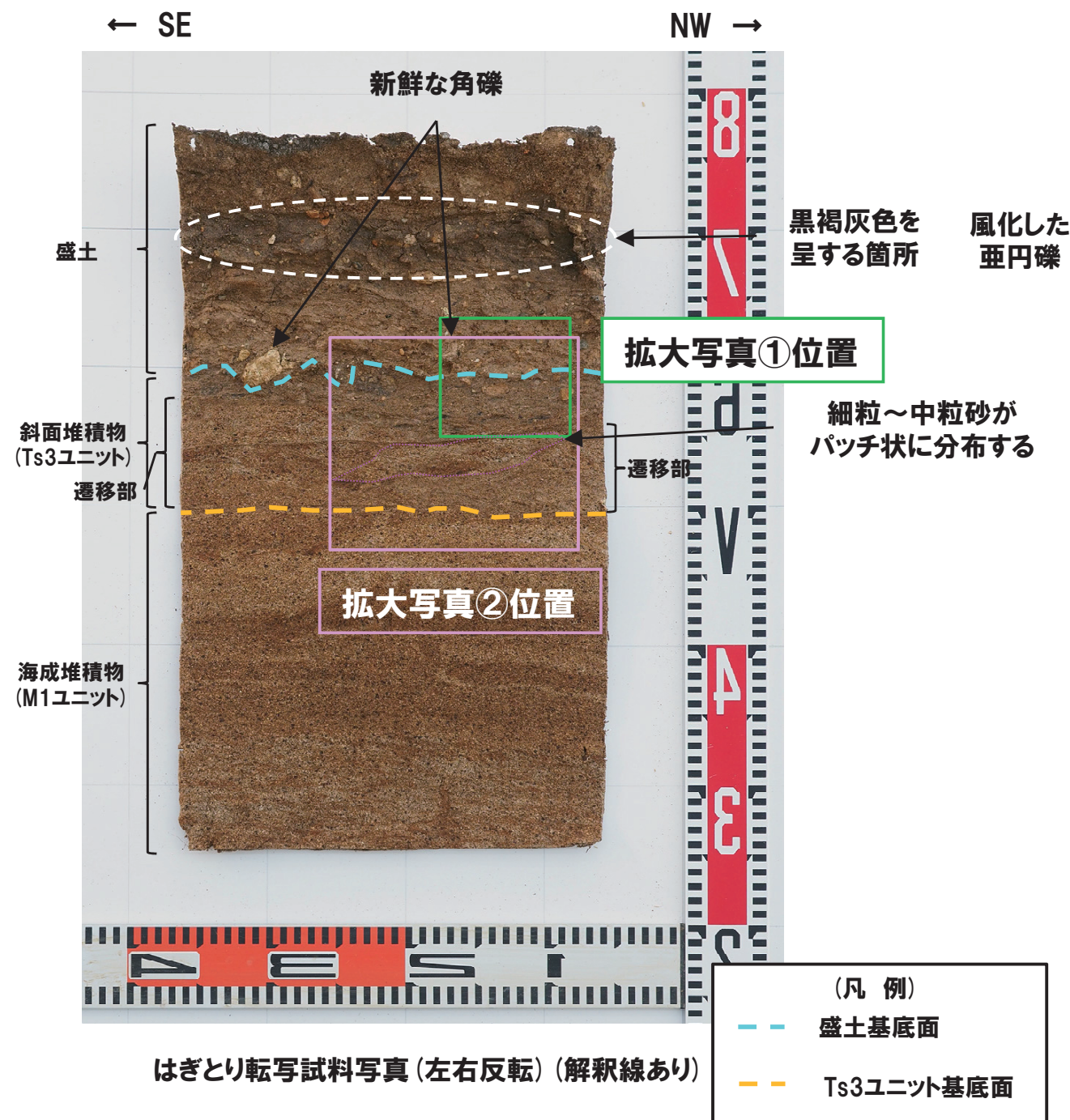
令和2年3月撮影

拡大写真(はぎとり転写試料③作成位置)

(1) 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料③(2/2)-

- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。また、下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じり砂で、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



(1) 地層区分の整理

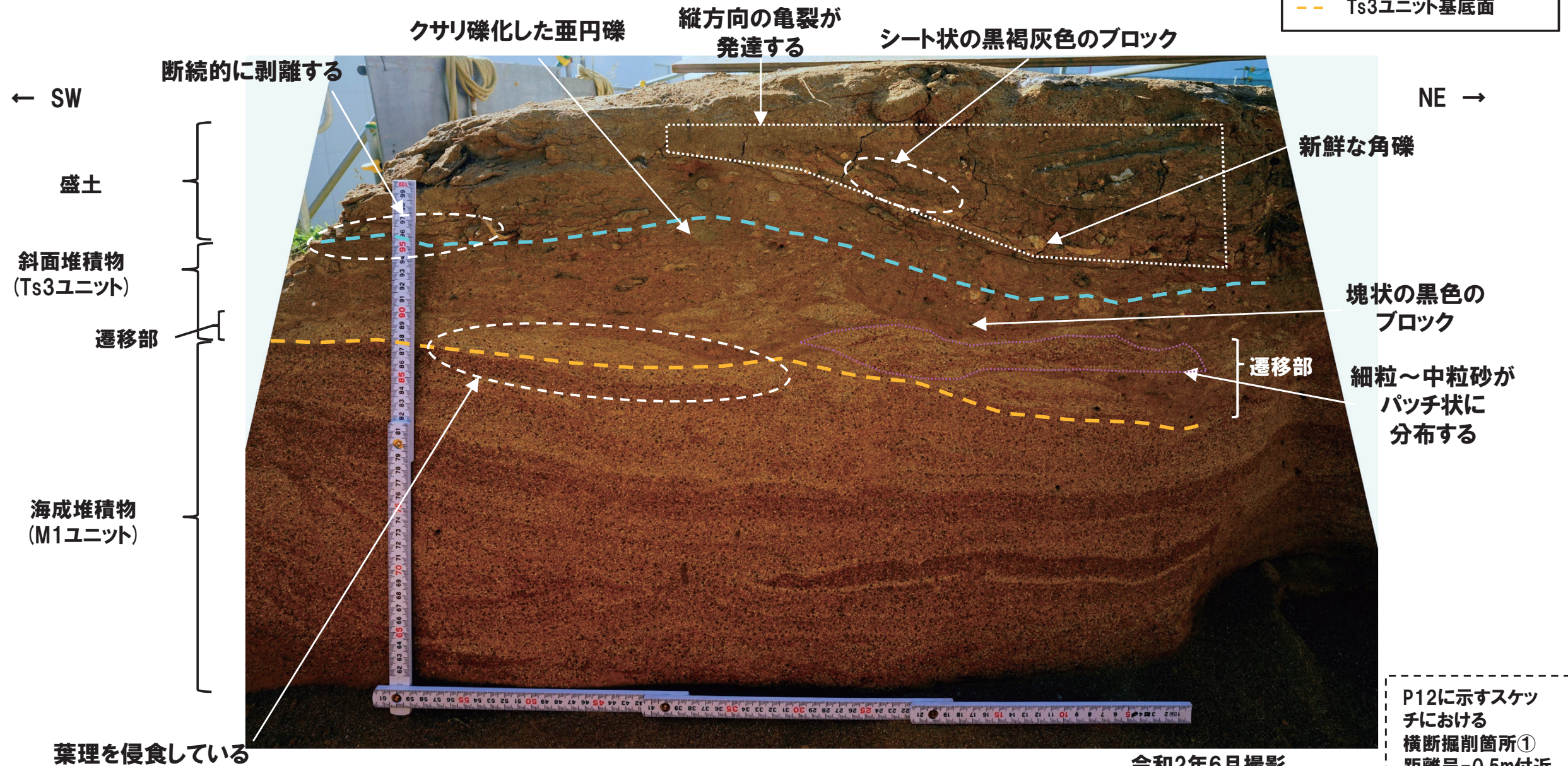
①層相確認-露頭観察(層相確認③)

- 海成堆積物(M1ユニット)は明褐灰~褐灰色を呈する砂で、細粒~中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部(Ts3ユニット)は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒~中粒砂がパッチ状に分布する。下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 斜面堆積物(Ts3ユニット)は暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、クサリ礫化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は暗褐灰~黒褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂~シルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。また、シート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異により境界は明瞭であり、断続的に剥離する。



(凡例)

- - 盛土基底面
- - Ts3ユニット基底面



P12に示すスケッチにおける横断掘削箇所① 距離呈-0.5m付近

拡大写真(層相確認③位置(解釈線あり))

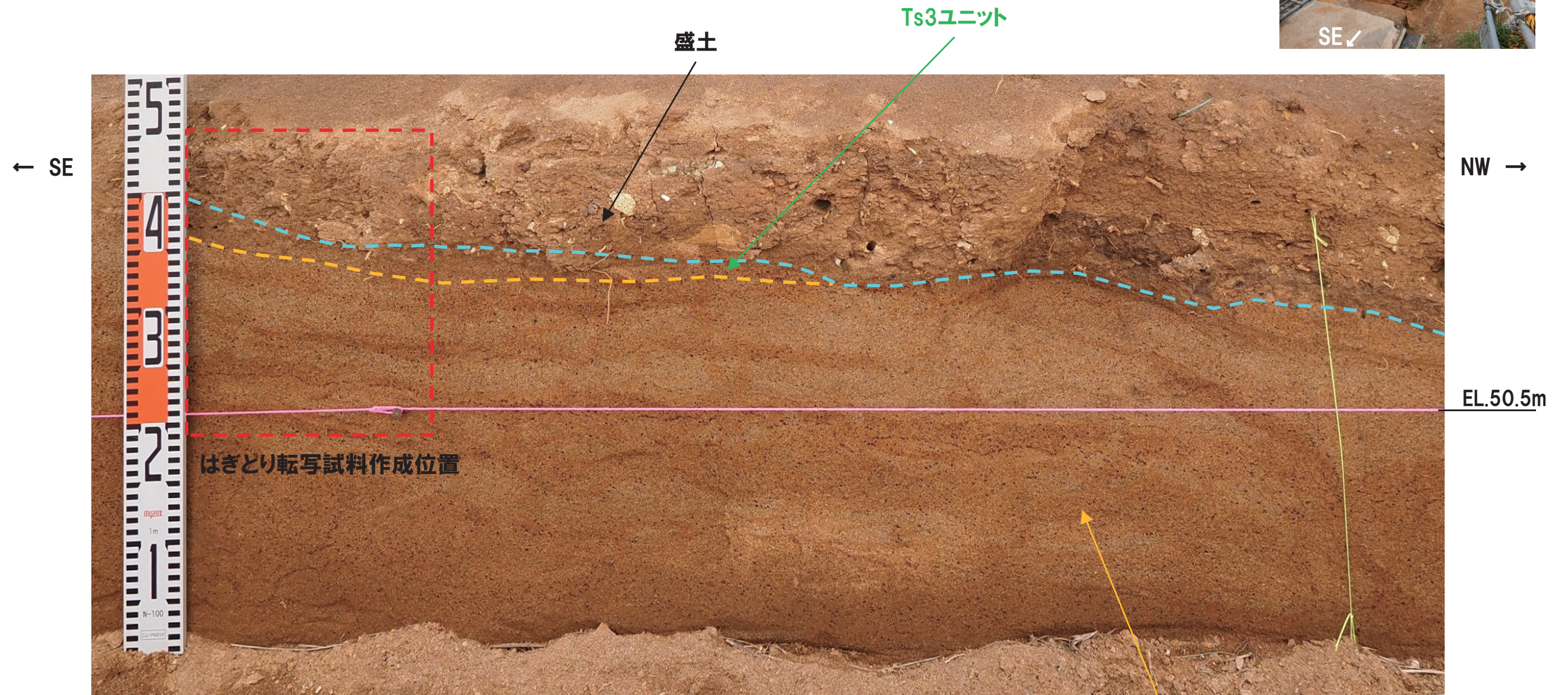
令和2年6月撮影

(1) 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④(1/2)

(凡例)

- 盛土基底面
- Ts3ユニット基底面



令和2年3月撮影

M1ユニット

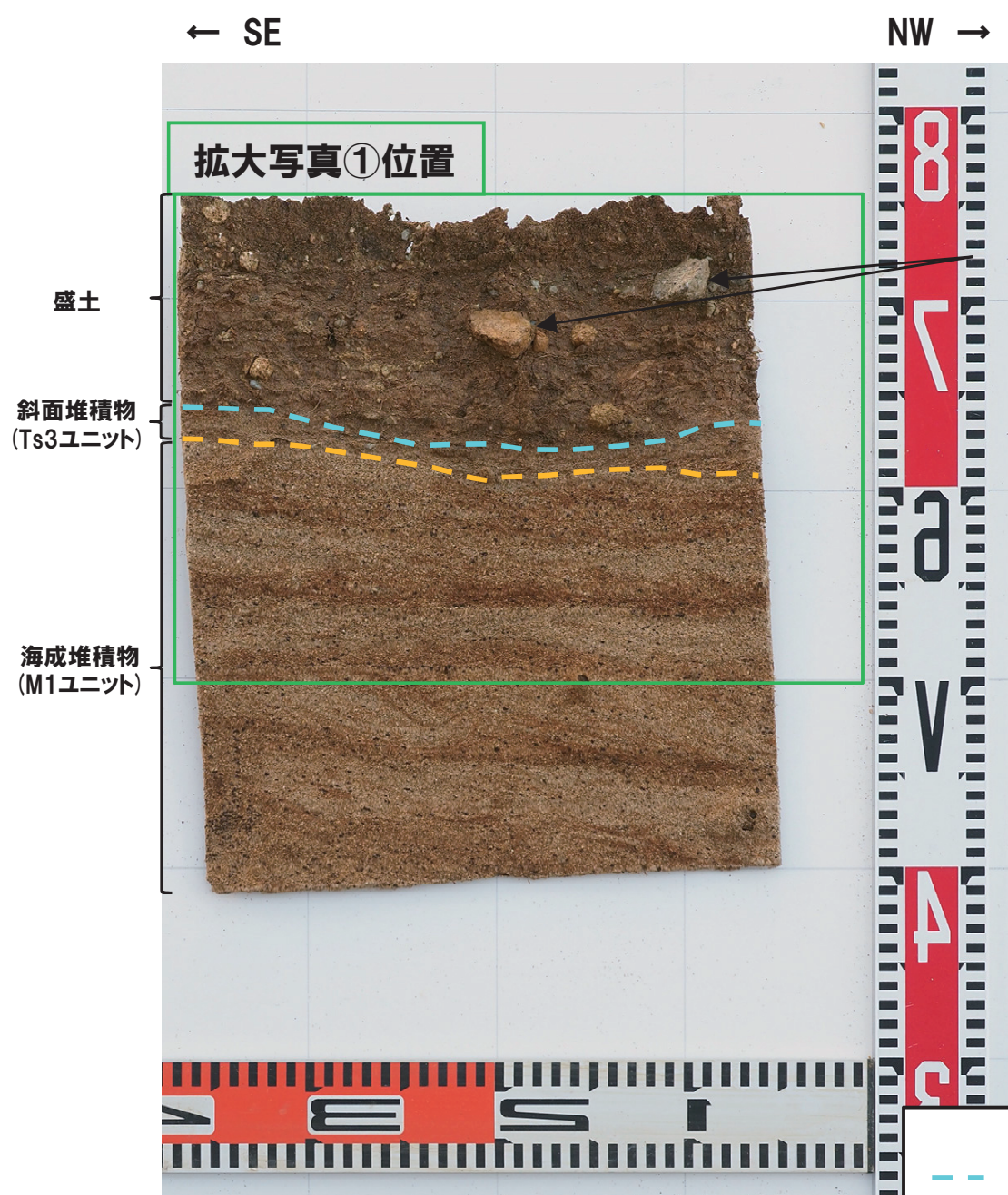
P12に示すスケッチにおける距離呈0.5m付近

拡大写真(はぎとり転写試料④作成位置)

(1) 地層区分の整理

①層相確認-はぎとり転写試料④ (2/2)

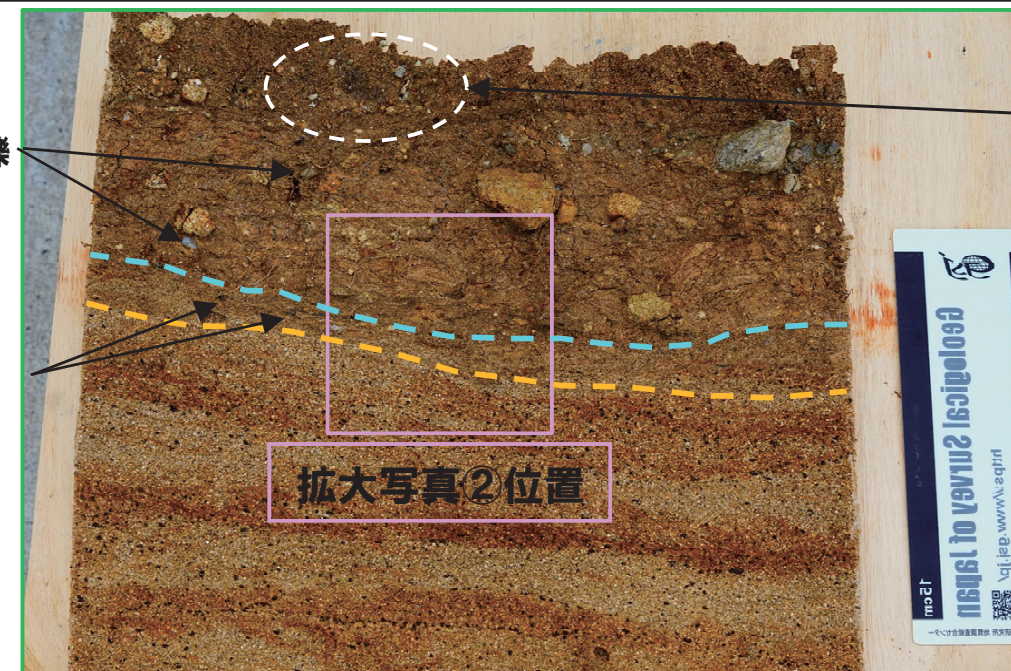
- 海成堆積物 (M1ユニット) は明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- 遷移部 (Ts3ユニット) は認められない。
- 斜面堆積物 (Ts3ユニット) は褐灰色を呈するシルト混じり砂で、粒状の黒色のブロックが認められる。また、下位の海成堆積物に認められる葉理を侵食している。
- 盛土は暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト質砂であり、不均質な層相を示す。新鮮な角～亜円礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



はぎとり転写試料写真 (左右反転) (解釈線あり)

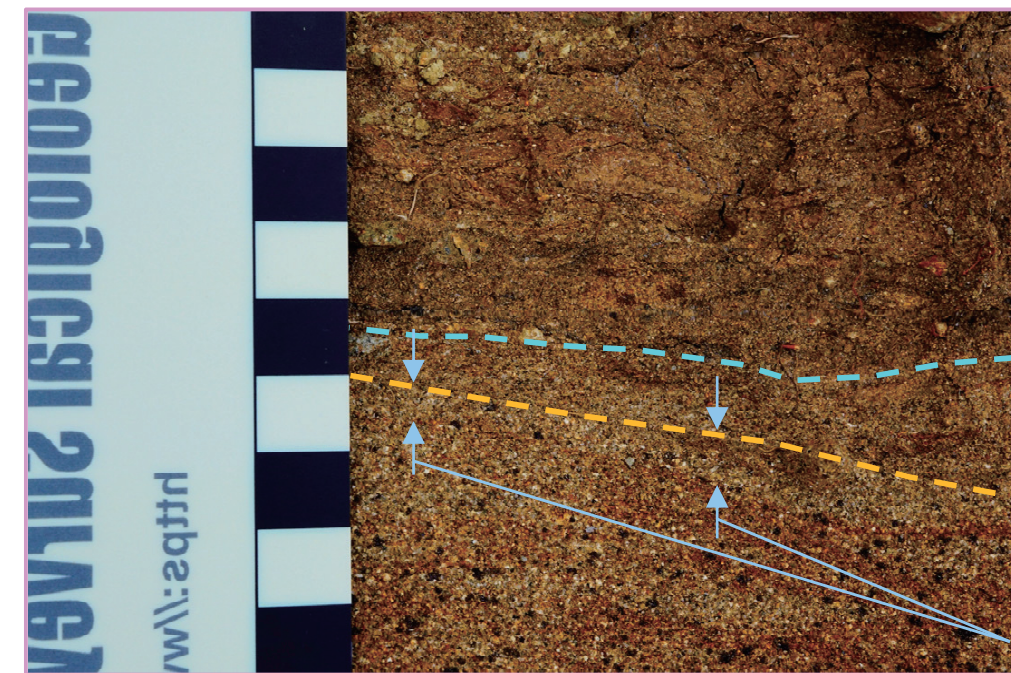
新鮮な角礫
新鮮な亜円礫
粒状の黒色のブロック

- (凡例)
- - 盛土基底面
 - - Ts3ユニット基底面



拡大写真① (左右反転) (解釈線あり)

黒褐灰色を呈する箇所



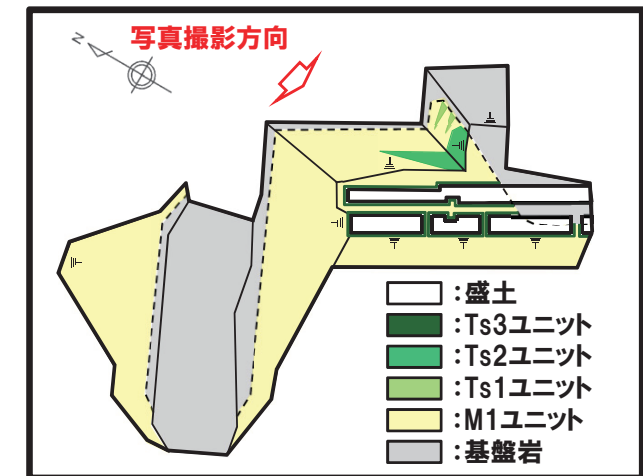
拡大写真② (左右反転) (解釈線あり)

侵食により葉理の厚さが変化している

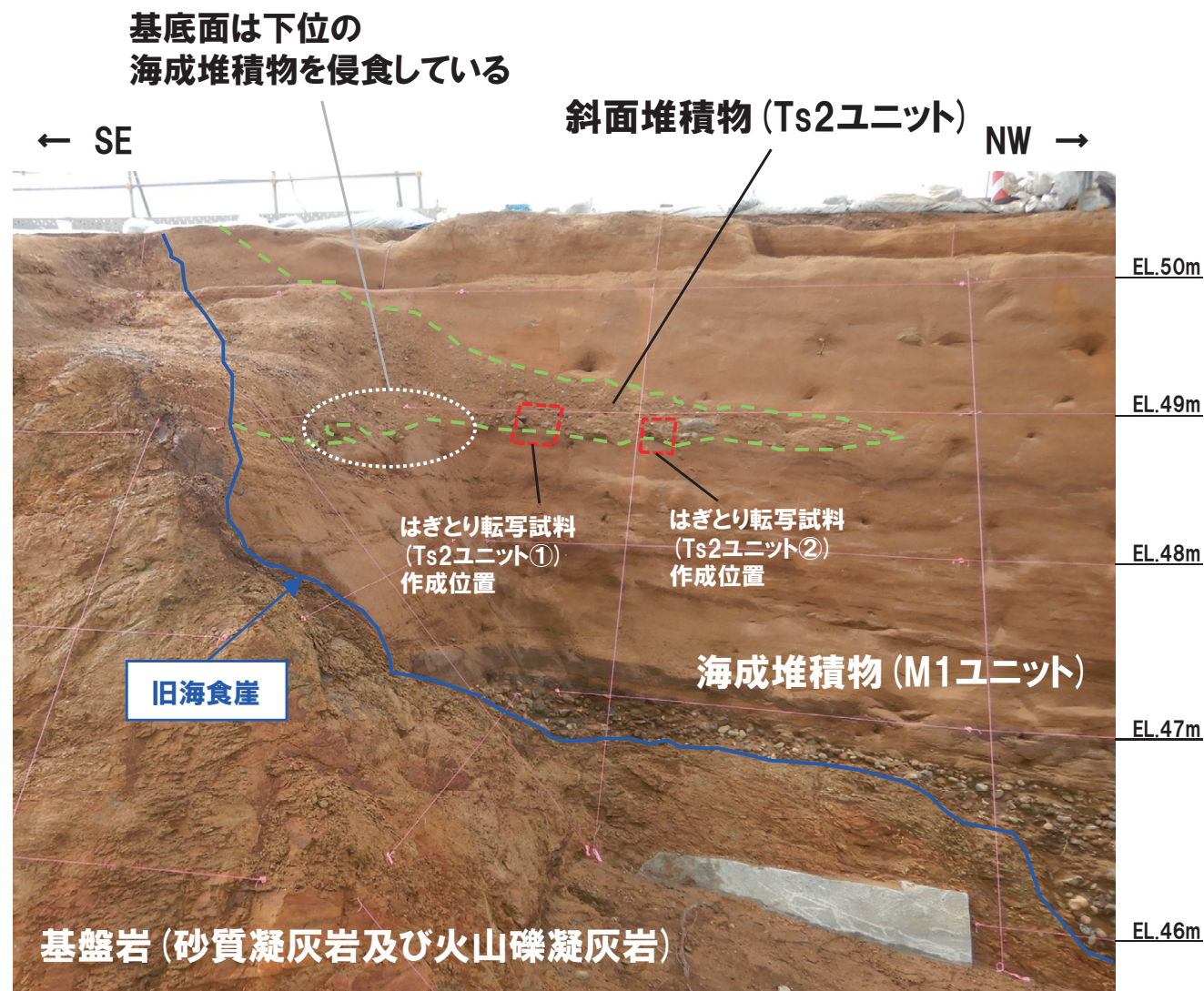
(1) 地層区分の整理

①層相確認-露頭状況 (Ts2ユニット)

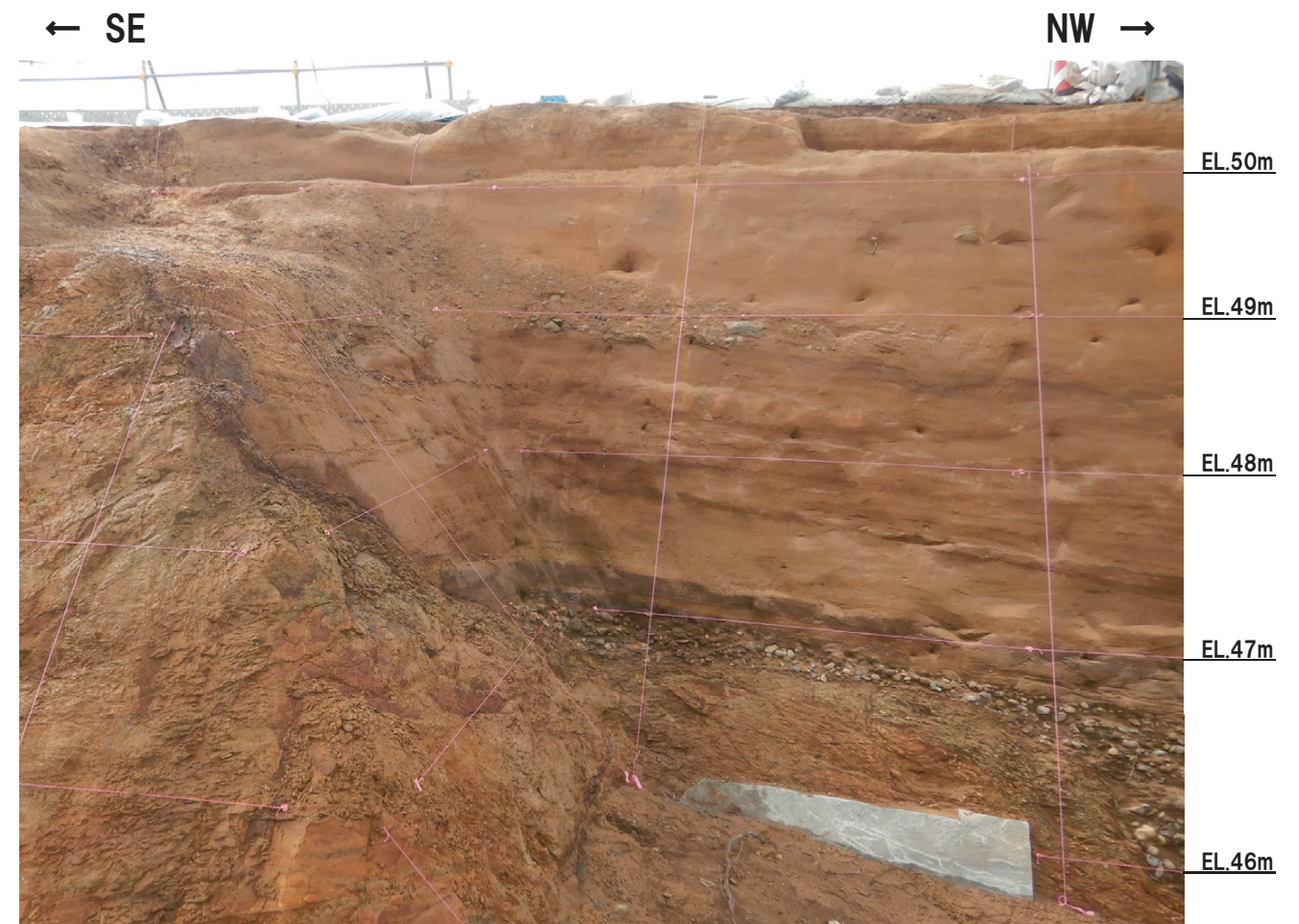
- 南側壁面の背後法面においては, Ts2ユニットが分布しており, 以下の特徴が認められる。
- ・淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂である
 - ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる
 - ・基底面は下位の海成堆積物を侵食している



開削調査箇所 (南側) 平面模式図



壁面写真 (解釈線あり)



壁面写真 (解釈線なし)